

身近にできるエコ活 10

「山から海まで 豊かな岡山を 次世代へ」の実現に向け、身近にできることからエコ活（環境に優しい活動）をはじめてみよう

ムダな電気をカットしよう
使わない部屋の電気を消したり、使わない家電のプラグをコンセントから抜いたりしよう

水の流しっぱなしをやめよう
洗物の時に水をこまめに止めたり、シャワーを出しっぱなしにないようにしよう

冷暖房時の室温をひかえめにしよう
冷房時の室温は 28℃、暖房時の室温は 20℃を目安に調整しよう

調理くずや油を流さないようにしよう
シンクに調理した後のくずや天ぷらなどを揚げた後の油を流さないようにしよう

家電は省エネタイプを選ぼう
家電製品などを新しく買う時は、省エネタイプものを選ぼう

買いすぎないようにしよう
ごみを減らすため、必要以上のものを買いすぎないようにしよう

自転車・バス・電車を使おう
外出する時は、できるだけ自家用車の使用を控え、自転車・バス・電車などを利用しよう

ごみの分別をしよう
可燃ごみ、不燃ごみ、ペットボトル、アルミ缶、ガラス瓶など、ごみと資源の分別をしよう

エコドライブをしよう
自動車を運転する時は、やさしい発進を心掛けたり、不要な荷物をおろしたりしよう

環境美化活動に参加しよう
地域の環境美化活動や清掃活動に参加しよう

ECO VISION 2040

エコビジョン2040

岡山県環境基本計画 概要版

編集・発行 岡山県環境文化部環境企画課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号
TEL.086-226-7285 FAX.086-233-7677
e-mail kanki@pref.okayama.lg.jp



総合評価値 **80**

- 古紙パルプ配合率 70%：(60点)
- その他持続可能性を
- 目指したパルプ割合 30%：(15点)
- 塗工量 30g/m²以下：(5点)

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画
エコビジョン2040



計画の目的

岡山県環境基本条例の理念に基づき環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進します。

基本理念

- 環境の保全は、県民の健全で恵み豊かな環境の恵沢を享受する権利を実現し、健全で恵み豊かな環境を将来の世代へ継承する責任を果たすことを旨として、行われなければならない。
- 環境の保全は、社会経済活動その他の活動による環境への負荷をできる限り低減することその他の環境の保全に関する行動により、人と自然との共生が確保されることが持続的に発展することが旨として、すべてのもの参加の下に行われなければならない。
- 地球環境保全は、人類共通の課題であるとともに県民の健康で文化的な生活を将来にわたって確保する上での課題であることにかんがみ、積極的に推進されなければならない。

2040年頃 目指す姿 (長期的な視点)

より良い環境に恵まれた持続可能な社会
～山から海まで 豊かな岡山を 次世代へ～

令和3年度～令和6年度 2021年度～2024年度 具体的な取組

基本目標
気候変動対策（緩和・適応）の推進循環型社会の形成
安全・安心な生活環境の保全と創出
自然と共生した社会の形成

横断的な視点
環境の未来を支える担い手づくり
環境の未来を創る経済振興

基本目標：目指す姿の実現に向けた施策の柱
横断的な視点：基本目標を進める上での土台



ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画
エコビジョン2040

概要版



岡山県

ECO VISION 2040 4つの基本目標と2つの横断的な視点

I 基本目標 気候変動対策（緩和・適応）の推進

地球温暖化防止の取組をさらに進めるため、新エネルギーの導入促進や省エネルギーの推進のほか、脱炭素社会に向けたライフスタイルの定着、森林保全等による吸収源対策などに取り組むとともに、気候変動影響の被害を回避・軽減する適応策についても、具体的な取組につなげていくための検討や調整を進めます。

重点プログラム	指標の例															
新エネルギーの導入促進 <ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電の導入促進 木質バイオマスのエネルギー利用促進 情報の発信と地域資源を活かした取組の推進 地域ぐるみで進めるスマートコミュニティの推進 	指標 <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>現状 令和元年度(2019年度)</th> <th>努力目標 令和6年度(2024年度)</th> </tr> <tr> <td>県内に設置された太陽光発電総設備容量</td> <td>1,802メガワット(累計)</td> <td>3,500メガワット(累計)</td> </tr> <tr> <td>エコドライブ宣言者数</td> <td>35,456人(累計)</td> <td>47,000人(累計)</td> </tr> <tr> <td>電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及台数</td> <td>5,797台(累計)</td> <td>8,600台(累計)</td> </tr> <tr> <td>岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の対象となる事業所の温室効果ガス排出量</td> <td>3,281万t-CO₂</td> <td>2,895万t-CO₂</td> </tr> </table>	指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)	県内に設置された太陽光発電総設備容量	1,802メガワット(累計)	3,500メガワット(累計)	エコドライブ宣言者数	35,456人(累計)	47,000人(累計)	電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及台数	5,797台(累計)	8,600台(累計)	岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の対象となる事業所の温室効果ガス排出量	3,281万t-CO ₂	2,895万t-CO ₂
指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)														
県内に設置された太陽光発電総設備容量	1,802メガワット(累計)	3,500メガワット(累計)														
エコドライブ宣言者数	35,456人(累計)	47,000人(累計)														
電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及台数	5,797台(累計)	8,600台(累計)														
岡山県温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の対象となる事業所の温室効果ガス排出量	3,281万t-CO ₂	2,895万t-CO ₂														
省エネルギーの推進 <ul style="list-style-type: none"> オフィスビル等の省エネルギー化の推進 県有施設等の省エネルギー化の推進 省エネルギーに配慮した住宅の普及拡大 省エネルギー型機器等の普及拡大 																
脱炭素社会に向けたライフスタイル・ビジネススタイルの定着促進 <ul style="list-style-type: none"> アースカーパーメンパーシブ制度の推進 COOL CHOICE(賢い選択)の推進 エコドライブの推進 地球に優しい移動手段の選択 																
環境に配慮した交通環境の整備と活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> 信号灯等のLED化の推進 県公用車へのエコカーの率先導入 電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及促進 道路交通の円滑化の推進 																
温室効果ガスの排出抑制と吸収源対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度による排出抑制 フロン類の排出抑制の推進 公益的機能を高めるための森林整備の推進 県民参加による森づくりの推進 都市緑化等の推進 																

II 基本目標 循環型社会の形成

資源循環等により環境への負荷を可能な限り抑える“循環型社会”の形成に向け、キャンペーン等を通じた意識の醸成や実践行動への働きかけ、3Rの促進、廃棄物の適正処理の推進などに取り組むほか、災害時の廃棄物処理が円滑に行えるよう、地域ごとの体制づくりを支援する取組を進めます。

重点プログラム	指標の例															
循環型社会実現に向けた意識改革と実践 <ul style="list-style-type: none"> 「おかやま・もったいない運動」の推進 プラスチック3Rの推進 食品ロス削減の推進 循環資源マッチングシステムの利用促進 	指標 <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>現状 令和元年度(2019年度)</th> <th>努力目標 令和6年度(2024年度)</th> </tr> <tr> <td>循環資源登録数※1</td> <td>441件(累計)</td> <td>470件(累計)</td> </tr> <tr> <td>一般廃棄物の排出抑制・資源化率</td> <td>96.3% 平成30年度(2018年度)</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>産業廃棄物の排出抑制・資源化率</td> <td>95.6% 平成30年度(2018年度)</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>建設廃棄物(アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設汚泥)の再資源化率※2</td> <td>74.8~100%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)	循環資源登録数※1	441件(累計)	470件(累計)	一般廃棄物の排出抑制・資源化率	96.3% 平成30年度(2018年度)	97%	産業廃棄物の排出抑制・資源化率	95.6% 平成30年度(2018年度)	96%	建設廃棄物(アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設汚泥)の再資源化率※2	74.8~100%	100%
指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)														
循環資源登録数※1	441件(累計)	470件(累計)														
一般廃棄物の排出抑制・資源化率	96.3% 平成30年度(2018年度)	97%														
産業廃棄物の排出抑制・資源化率	95.6% 平成30年度(2018年度)	96%														
建設廃棄物(アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設汚泥)の再資源化率※2	74.8~100%	100%														
一般廃棄物の3Rの推進 <ul style="list-style-type: none"> 循環型社会づくりに向けた処理システムの構築 ごみの分別収集の徹底 リサイクル関連法の周知・徹底 																
産業廃棄物の3Rの推進 <ul style="list-style-type: none"> 排出事業者に対する指導・助言 リサイクル関連法の周知・徹底 3Rに関する広域ネットワークの形成 公共工事に係る廃棄物の再資源化 循環型社会形成推進モデル事業の推進 																
廃棄物の適正処理の推進 <ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物処理施設の計画的な整備の促進 産業廃棄物処理業者等に対する監視・指導 PCB廃棄物の計画的な処理の推進 農業用使用済みプラスチックの適正処理の推進 産業廃棄物の広域的な移動に対する対応 																
不法投棄等の根絶と環境美化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 不法投棄等の防止と早期発見 海ごみ対策の推進 地域の活動の促進 																
災害廃棄物に対する備え <ul style="list-style-type: none"> 円滑な処理体制づくり 																

※1: 循環資源(廃棄物及び使用済製品や副産物等のつち有用なもの)を提供したい事業者と利用したい事業者がインターネット上で情報交換し、資源の有効活用を行う「循環資源マッチングシステム」への登録数
 ※2: 県土木部が発注する工事が対象

III 基本目標 安全・安心な生活環境の保全と創出

大気や水などの生活環境の安全・安心を守るため、PM2.5対策をはじめ、児島湖や瀬戸内海の再生、工場への指導等を通じた土壌汚染対策、騒音・振動・悪臭の防止、アスベストやダイオキシン類等の有害化学物質による環境汚染の防止、環境放射線の監視など、様々な対策を講じます。

重点プログラム	指標の例															
大気環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> 工場・事業場対策の推進 大気汚染防止夏期対策の実施 微小粒子状物質(PM2.5)対策の推進 ディーゼル自動車粒子状物質削減対策の推進 	指標 <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>現状 令和元年度(2019年度)</th> <th>努力目標 令和6年度(2024年度)</th> </tr> <tr> <td>工場・事業場の排ガス等基準適合率</td> <td>98%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>オキシダント情報等メール配信登録者数</td> <td>16,894人(累計)</td> <td>22,000人(累計)</td> </tr> <tr> <td>工場・事業場の排水基準適合率※1</td> <td>93.3%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>児島湖の水質目標値(COD)</td> <td>8.1mg/L※2</td> <td>7.2mg/L※3</td> </tr> </table>	指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)	工場・事業場の排ガス等基準適合率	98%	100%	オキシダント情報等メール配信登録者数	16,894人(累計)	22,000人(累計)	工場・事業場の排水基準適合率※1	93.3%	98%	児島湖の水質目標値(COD)	8.1mg/L※2	7.2mg/L※3
指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)														
工場・事業場の排ガス等基準適合率	98%	100%														
オキシダント情報等メール配信登録者数	16,894人(累計)	22,000人(累計)														
工場・事業場の排水基準適合率※1	93.3%	98%														
児島湖の水質目標値(COD)	8.1mg/L※2	7.2mg/L※3														
水環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> 生活排水対策の推進 工場・事業場対策の推進 																
児島湖水質保全対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 児島湖再生の推進 児島湖流域下水道事業の推進 	瀬戸内海の保全と再生 <ul style="list-style-type: none"> 沿岸域の環境の保全、再生及び創出 水質の保全及び管理 瀬戸内海の自然景観及び文化的景観の保全 水産資源の持続的な利用の確保 															
騒音・振動・悪臭の防止 <ul style="list-style-type: none"> 道路交通、航空機、新幹線鉄道の騒音・振動対策 騒音・振動・悪臭に係る規制地域の適切な指定 	土壌・地下水汚染の防止 <ul style="list-style-type: none"> 工場・事業場対策の推進 															
有害化学物質による環境汚染の防止 <ul style="list-style-type: none"> 有害大気汚染物質対策の推進 有害化学物質対策の推進 アスベスト対策の推進 	環境放射線の監視 <ul style="list-style-type: none"> 環境放射線の監視測定の実施 															

※1: 生物化学的処理においてpHがわずかに基準に適合しないケースがあり、その場合にも、速やかに是正の指導を行います。
 ※2: 平成29(2017)年度～令和元(2019)年度の平均値
 ※3: 令和4(2022)年度～令和6(2024)年度の平均値

IV 基本目標 自然と共生した社会の形成

人と自然が共生した社会を目指し、自然公園の保護と魅力向上による利用促進、希少野生動植物など野生生物の保護と管理、体験や学習等を通じた自然とのふれあいの推進、里山の保全やみどりの創出など、本県の豊かな自然や優れた景観を守り、親しみ、次代へつないでいく取組を進めます。

重点プログラム	指標の例															
自然公園等の保護と利用促進 <ul style="list-style-type: none"> 自然公園等の魅力向上に向けた取組 自然と調和した開発の指導 	指標 <table border="1"> <tr> <th>指標</th> <th>現状 令和元年度(2019年度)</th> <th>努力目標 令和6年度(2024年度)</th> </tr> <tr> <td>自然公園利用者数</td> <td>1,100万人 平成30年度(2018年度)</td> <td>1,210万人</td> </tr> <tr> <td>長距離自然歩道の利用者数</td> <td>143万人 平成30年度(2018年度)</td> <td>160万人</td> </tr> <tr> <td>身近な自然体験プログラムの参加者数</td> <td>28,636人*</td> <td>30,000人</td> </tr> <tr> <td>少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合</td> <td>96.6%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)	自然公園利用者数	1,100万人 平成30年度(2018年度)	1,210万人	長距離自然歩道の利用者数	143万人 平成30年度(2018年度)	160万人	身近な自然体験プログラムの参加者数	28,636人*	30,000人	少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合	96.6%	100%
指標	現状 令和元年度(2019年度)	努力目標 令和6年度(2024年度)														
自然公園利用者数	1,100万人 平成30年度(2018年度)	1,210万人														
長距離自然歩道の利用者数	143万人 平成30年度(2018年度)	160万人														
身近な自然体験プログラムの参加者数	28,636人*	30,000人														
少花粉スギ・ヒノキ苗木による植替えの割合	96.6%	100%														
野生生物の保護と適正な管理の推進 <ul style="list-style-type: none"> レッドデータブックの充実と活用 希少野生動植物の保護 鳥獣保護対策の推進 特定鳥獣保護・管理対策の推進 狩猟者の確保 外来生物に関する普及啓発等の推進 																
自然とのふれあいの推進 <ul style="list-style-type: none"> 自然環境学習等の推進 自然とふれあえる体験の場や機会の充実 	里地・里山の保全 <ul style="list-style-type: none"> 農地・農業用水等の保全 都市と農村との交流推進 															
水とみどりに恵まれた環境の保全と創出 <ul style="list-style-type: none"> 森林の整備による快適な環境の保全 都市と近郊のみどりの創出 緑化推進体制の充実 全国植樹祭の開催を通じた緑化意識の醸成 																

※: 平成28(2016)年度～令和元(2019)年度の平均値

I 横断的な視点 環境の未来を支える担い手づくり

環境保全の取組が、分野や業種、世代や立場を越えたあらゆる主体の参加と協働のもとで進められるよう、体験型の環境学習や環境教育のさらなる充実をはじめ、それらを担う指導者の育成や、関係者間の連携・ネットワークの場の提供、地域活動等の自主的な取組への支援など、担い手づくりに取り組みます。

II 横断的な視点 環境の未来を創る経済振興

世界の潮流や全国的な動きも捉えながら、県内においても、経済の成長・発展と環境の保全の両立が図られるよう、環境関連分野の新技术や研究開発に取り組み事業者への支援や、環境と好循環する農林水産業の振興、環境負荷の少ない経営や製品を認証・認定する制度の普及促進などの取組を進めます。

I 横断的な視点 環境の未来を支える担い手づくり

環境等関連分野の産業の振興

- 中小企業の新エネルギー設備導入等の支援
- 新エネルギー分野等に関する新技术等の研究開発の支援
- 電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及と技術開発
- 循環型産業クラスターの形成
- 木質バイオマスの活用推進
- 総合特区制度を利用した高効率・省資源型コンビナートの実現

環境と好循環した農林水産業の振興

- 環境保全型農業の推進
- 魅力ある林業の実現

環境安全に貢献する認証・認定制度の普及促進

- 環境マネジメントシステムの普及拡大
- 「岡山県エコ製品」の認定・周知
- 「岡山エコ事業所」の認定・周知

環境に配慮した事業者の育成・拡大

- 事業者による環境コミュニケーションの推進
- 環境影響評価の適正な実施
- 「岡山県グリーン調達ガイドライン」に基づく取組の推進

II 横断的な視点 環境の未来を創る経済振興

環境等関連分野の産業の振興

- 中小企業の新エネルギー設備導入等の支援
- 新エネルギー分野等に関する新技术等の研究開発の支援
- 電気自動車等(EV・PHEV・FCV)の普及と技術開発
- 循環型産業クラスターの形成
- 木質バイオマスの活用推進
- 総合特区制度を利用した高効率・省資源型コンビナートの実現

環境と好循環した農林水産業の振興

- 環境保全型農業の推進
- 魅力ある林業の実現

環境安全に貢献する認証・認定制度の普及促進

- 環境マネジメントシステムの普及拡大
- 「岡山県エコ製品」の認定・周知
- 「岡山エコ事業所」の認定・周知

環境に配慮した事業者の育成・拡大

- 事業者による環境コミュニケーションの推進
- 環境影響評価の適正な実施
- 「岡山県グリーン調達ガイドライン」に基づく取組の推進